【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成18年2月9日(2006.2.9)

【公開番号】特開2000-175899(P2000-175899A)
【公開日】平成12年6月27日(2000.6.27)
【出願番号】特願平10-375947
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　6/03　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　6/03　３３０Ａ
Ａ６１Ｂ　6/03　３２３Ｅ

【手続補正書】
【提出日】平成17年12月16日(2005.12.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
Ｘ線源からのＸ線を被検者に照射し前記Ｘ線源と対向配置されたＸ線検出器で前記被検者の透過Ｘ線を投影データとして検出するデータ検出系と、前記被検者を乗せる天板部と、この天板部を長手方向に移動可能に支持するフレームと、このフレーム上で前記天板部を移動する駆動装置と、この駆動装置によって前記天板部を移動するときは前記天板部を前記駆動装置に連結し、手動によって前記天板部を移動するときは前記天板部を前記駆動装置から取り外す着脱部と、この着脱部によって前記天板部を前記駆動装置から取り外されたことを検出する電気回路を含み、この電気回路の検出結果に基づき前記Ｘ線源からのＸ線の照射を制御する制御回路と、を備えたＸ線ＣＴ装置において、前記フレーム部へ前記天板部の移動方向に沿って設けられ、その一端に前記制御回路が接続された導電部材と、この導電部材と電気的に接触しながら前記天板部と共に移動し、かつ前記電気回路の一部を構成する接続部と、を備えたことを特徴とするＸ線ＣＴ装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
このような着脱装置を設けたＸ線ＣＴ装置において、検査中に被検者の乗る天板を、その移動のための駆動装置から切り離して移動させた後に、検査を再開する場合において、着脱手段による天板と駆動装置の結合がなされていないときは、Ｘ線を照射しながら天板を縦方向に前後に動かす検査方法では、天板は移動動力機構から既に切り離されているため、天板は動かずＸ線だけが被検者に照射されることになる。この場合の被検者の被曝は無効な被曝となってしまう。これを防止するために天板には動力機構からの切り離しを検出するマイクロスイッチやセンサーなどが設置されている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更

【補正の内容】
【０００９】
（１）Ｘ線源からのＸ線を被検者に照射し前記Ｘ線源と対向配置されたＸ線検出器で前記被検者の透過Ｘ線を投影データとして検出するデータ検出系と、前記被検者を乗せる天板部と、この天板部を長手方向に移動可能に支持するフレームと、このフレーム上で前記天板部を移動する駆動装置と、この駆動装置によって前記天板部を移動するときは前記天板部を前記駆動装置に連結し、手動によって前記天板部を移動するときは前記天板部を前記駆動装置から取り外す着脱部と、この着脱部によって前記天板部を前記駆動装置から取り外されたことを検出する電気回路を含み、この電気回路の検出結果に基づき前記Ｘ線源からのＸ線の照射を制御する制御回路と、を備えたＸ線ＣＴ装置において、前記フレーム部へ前記天板部の移動方向に沿って設けられ、その一端に前記制御回路が接続された導電部材と、この導電部材と電気的に接触しながら前記天板部と共に移動し、かつ前記電気回路の一部を構成する接続部と、を備えたことを特徴とするＸ線ＣＴ装置。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】削除
【補正の内容】